

週報

こひつじ

第41巻 15号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

新しい戒めとしての愛

その二 神の愛に触発されて生まれた愛

では、その愛は、どういう意味において新しかったのか。

第一に、それは人の決心や努力、訓練によって作り出されたものではなく、神の愛に触発されて生まれたものだった。

したがって愛は私たちにはない。コリント一の四）ただ神にある。

月に光がないのと同じ原理だ。月は太陽に照らされて輝いている。慰めを十分受ける。するとその慰

光の根源が太陽にあるように、愛の根源も神にある。だから、まず神の愛を十分受ける。そしてそ

れに浸されたとき、愛は私たちから放出される。放出されるのは私たちの愛ではなく、神の愛である。

ながら、天を仰ぎ、言った。

「人とは、何者なのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは」

（詩篇一三九の一七、一八）

私もクリスチャンになって思った。なぜ神は私のような者を心に留めてくださるのかと。

さらに驚いたのは、神が、

「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、あなたを知り」（エレミヤ一の五）

私が神を愛したのではない。神がまず、私を愛してくださった。その感動が私を根本から変えたのである。

とおっしゃっていることだった。私は、生まれる前から、神に知られていたというのだ。その事実

はなんと私を慰めてくれたことだろう。

しかも、私を造るにあたっては、彫刻家が実際にのみを当てる前に、どんな像にするかを長く思いめぐらすように、膨大な時間を神は私のために使ってくださいていたのである。

五〇数年前、この町での伝道を始めたとき、中学生や高校生たちが、毎朝、登校前に聖書を学びにやってきた。

そのことを、詩篇の記者はこう歌っている。

私は、彼らに何を語ったのか。神の愛にふれたとき、私の心に起こった出来事である。

「神よ。あなたの御思いを知るのはなんとむずかしいことでしょう。その総計は、なんと多いことでしょう。それを数えようとしても、それは砂よりも数多いのです」

私はそのとき、自分がどんなにかけがえのない存在であるかを知った。そのことは、私の人生を根本から変えた。そして人生を大切

なものとして生きようと思った。

君たちも同じだよ。神は君たちのことを大切に思ってくださっている。君たちには、君たちにしかできない尊い何かがある。

そう言って彼らを励ますのが私の伝道だったように思う。

パウロの伝道も、それ以上でも以下でもなかった。

どうして彼はあれほどの苦難に遭いながら、伝道を続けたのか。彼は言った。

「キリストの愛が激しく迫ってくるからです」と。

彼の伝道もただ神の愛に強く促されて行なわれたものだったのだ。

(続)

今日の礼拝

○召天者記念礼拝、教会学校は、ともに午前一〇時半から。

○説教は米村牧師。

○追悼式は午前一二時から教会墓地で。

先週の礼拝

○司会は岩崎宏志さん。

○説教は、西岡潤也さんが、「一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます」(ヨハネ一二の二四)の言葉から、何もしないそのままの人生か、それとも何かに自分を投じて実を結ぶ人生か、だれにもどちらかの人生が待っている」と語ってくれました。

○礼拝参加者は、第一礼拝が三八名、第二が三三名。合計七一名(男二四、女四七)。それに子どもが五名、合わせて七六名でした。

『こひつじ Jr』

『こひつじ Jr』第三二号ができました。受付にあります。

自由にお取りください。毎回、違った人を紹介する「あの人インタビュー」が好評です。今回は、後藤杏奈さん。「編集室から」は尾頭貴美子さんです。

今後の予定

○米村牧師の長女真紀さんとその家族四人が来会。五月二八日(六月五日まで滞在します。六月一日(日)は、午前一〇時半からの合同礼拝となっていますが、彼らが証と音楽の奉仕をしてくれま

す。七月六日(一)〇日まで米村牧師夫妻はグレースフェローシップ(関連教会牧師会)出席のために留守をします。会場は静岡県浜松市の施設。今回は、二月に突然天に召されたジョン・ボストロム宣教師を偲んでの会となります。

そのあと東京を経由して七月一日には帰熊の予定です。

○八月一六日、一七日には、関西聖書学院の富浦牧師家族、総勢八人が来会予定です。特別な集会が準備されます。

本の在庫数

イエスの処方箋・・・三〇七冊

『地の塩』がもうわずかです。

『結婚・家庭・教育』、『仕事と人生』、『生と死』、『孤独と出会い』、『愛とゆるし』、『幸福論』、以上の六冊は在庫切れです。

そのなかで『結婚・家庭・教育』は、要望もありますので再版を検討しています。

牧師身辺

ぼくたちは先週、南阿蘇の松田幸恵さんの招きで、ご夫妻宅を訪ねました。お隣に住むお母様の歓迎も受け、おいしい食事もいただきました。自然に囲まれた静かな環境で、鳥や動物(鳥は、敷地内の木に巣をかけ、猿や鹿も近くまでやってくるそうです)、草花の話が聞け、心が豊かにされて帰ってきました。何より、ご家族との会話が楽しかったです。

牧師のメールアドレス

yonemura@ja2.so-net.ne.jp